

観光社会資本の事例

テーマ	沖縄伝統芸能の殿堂「国立劇場おきなわ」		
【施設の状況写真】			
			
外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)にみられる形態をモチーフとしています。		プレキャストコンクリートの外壁は、「雨端(あまはじ)」と呼ばれる大きな庇の張り出しと「チニブ」という網代状の竹組みの意匠をイメージさせる斜交格子です。	
【施設の利用写真】			
		(組踊「万歳敵討」より) 	
ロビーは大劇場と小劇場共通となっており、資料展示室、レファレンスルームを併設しています。	組踊り用の可変舞台を持つ大劇場は、木格子の意匠としており、回り舞台、花道も備えています。	「組踊」は、沖縄の本土復帰の年、昭和47年に国の重要無形文化財に指定されました。科白を主として歌と踊りで筋を運ぶ独特の歌舞劇です。	
【観光資源としての利用状況】			
敷地周辺は、浦添市による組踊公園として劇場と一体となった整備が進められ、沖縄の歴史や風土を感じられる独創的な外観と相まって、地域のランドマーク的な存在となっています。			
重要無形文化財の組踊をはじめとする本格的な沖縄伝統芸能の鑑賞が可能となっただけでなく、伝統芸能に関する資料展示や資料閲覧などの公開が行われ、沖縄の観光コースの一翼を担っています。			
現在、企画公演の外にも各種団体への施設貸し出しを行い、多くの芸能関係者の上演に利用され、確実に伝統芸能の裾野が広がりつつあります。			

テーマ	沖縄伝統芸能の殿堂「国立劇場おきなわ」
【社会資本の基礎データ】 ○ 名称 国立劇場おきなわ ○ 所在地 沖縄県浦添市勢理客 4-14-1 ○ 事業名 劇場整備事業 ○ 事業主体 沖縄総合事務局((運営)独立行政法人 日本芸術文化振興会) ○ 事業期間 平成15年(完成)	
【社会資本の役割・効果】 「国立劇場おきなわ」は、沖縄振興策のプロジェクトのひとつとして位置づけられ、沖縄伝統芸能等の保存振興を目的として設立され、文化庁と沖縄開発庁(当時)で協同して事業の実施が進められました。 「国立劇場おきなわ」が完成したことにより、次のことが可能となりました。 ・ 国の重要無形文化財「組踊」の専用劇場がもうけられた。 ・ 沖縄伝統芸能の保存振興が可能となった。 ・ 沖縄の地理的、歴史的な特性を生かした伝統文化を通じたアジア・太平洋地域の交流の拠点ができた。 ・ 沖縄伝統芸能の技芸の正統な継承、伝承者養成、組織的な記録保存・調査研究が可能となった。	
【位置図】 	
【関連ホームページ】 国立劇場おきなわ http://www.nt-okinawa.or.jp	